

尾瀬ネットワーク通信

2006年2月20日 VOL9. 1(26) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

入山者数の激減と活動の方向

～NW発足10周年を迎えて～

高橋 喬

ネットワーク(NW)が発足してから、こととして10年目を迎えた。振り返ってみると、旧守る会の解散で活動の場を失ってしまった仲間たちのために、一部反対勢力の圧力に屈せず、この会を立ち上げて正しかったと思っている。

この10年間に法人化をはじめ、フィールドでの活動など多様な展開を図ってきた。団体の規模からすれば、いささかオーバーロードの感も否めなかったが、理事や指導員、会員の皆さんの献身的な活動に支えられて、今日まで存続することができた。

入山者数が10年で半減

ところで、尾瀬では無視できない問題が起きている。入山者数の激減である。NWの発足当時、年間64万7,000人(1996年)を超えていた入山者数が、昨年は31万7,800人と10年間で半減してしまった。これにはさまざまな原因が考えられるし、指摘もされているが、いずれも憶測の域を出ない。

2000年に約42万8,000人に減ったのを受けて、翌年6月16日の「朝日新聞」群馬版は「不況で客足激減」山小屋 風呂休止日は撤廃の見出しで、オーバーユースの規制を目的に組織された尾瀬保護財団の尾瀬入山適正化推進委員会の代わりに、企画運営委員会を同年夏から発足させて、山小屋の宿泊客をなんとか増やそうと話し合うことを決めている。景気低迷で宿泊客が減り、日帰り客の割合が増えているため、風呂休止日など「規制」から「誘客」に方針転換している。

入山需要の一巡か

05年12月7日付の「福島民報」は、関係者の分析として「趣味の多様化」や「身近なところで自然を楽しむ人の増加」が尾瀬入山者の減少につながっていると報道している。この記事の談話で桧枝岐村の星好久村長は、ラムサール条約の登録を機会に「来年(06年)以降は

環境を学ぶ場として子どもたちを受け入れていきたい」と語っている。

また、山小屋経営者のひとは入山者の80%程度は中高年者なので、子どもたちにもっと尾瀬の良さをアピールしていきたい、と述べている。つまり、おとながダメなら子どもを狙おうという作戦である。

これも一理あるかもしれない。しかし、趣味の多様化で中高年者の入山者が減っているとは考えにくい。一般的にみて、中高年層のハイカーは増えてはいても、減っているとは考えにくい。事実、尾瀬以外の低山などに出かけてみると、ほとんどが中高年のハイカーで賑わっている。これらのハイカーの中には、すでに一度は尾瀬を訪れたことのある人たちが、かなり含まれているのではないだろうか。つまり、首都圏のハイカーを中心に、尾瀬入山需要が一巡してしまっただけでは、と考えられないこともない。

もう一つ、60万人台を記録した平成8年と9年は「日本百名山」ブームのピークの頃であったことも、忘れてはならないと思う。これは一過性のブームがもたらした異常な数字で、この水準を物差しにしてしまうと、半減したことのほうが異常に思えてくる。

なんでも反対でいいか

入山者減の傾向は、尾瀬の自然にとっては好ましいことに違いないが、地元の人びと、とりわけ山小屋や民宿にとっては大きな死活問題である。失礼だが、とくにこれといった地場産業に恵まれない地元の人たちにとって、尾瀬はかけがえのない大きな存在である。私たちにこの人たちの生活権を奪う資格などはない。

このような状況の中で、10年1日のごとく何もかも「反対」と目くじらを立てているだけで良いのだろうか。もちろん、尾瀬の自然にとって重大な反対すべき問題に対しては、これまでの姿勢を断固崩してはならない。しかし、

地元の人たちにとって、利便性や経済性につながる半面、尾瀬の自然にとっての影響はさほど大きくないと判断できる事柄については、容認することも必要ではないかと思う。

こうした意味で、われわれにとって10年目を迎えたことしは、活動の方向の一部転換が求められる年になるような気がする。4月の定期総会で、皆さんのご意見をうかがいたいと思っている。

武田博士尾瀬入山100周年 至仏山の修復について講演

日本自然保護協会・横山隆一氏

尾瀬を守る会（中根一郎会長、本会など6団体で構成）は2005年11月23日、群馬県沼田市の尾瀬高校で故武田久吉博士の尾瀬入山100周年記念行事を開催した。

同日は記念行事の一環として群馬県尾瀬保護専門委員・菊池慶四郎氏の「アヤマ平から学ぶこと」と、日本自然保護協会常勤理事・横山隆一氏の「至仏山の荒廃と今後の修復のために」と題した講演が行われ、会場を埋めつくした約200人の参加者に尾瀬保全対策の重要性をアピールした。



講演する横山隆一氏

横山氏が講演で紹介した「至仏山環境共生推進計画調査」の検討内容（あらまし）は次のとおり。

1) ハザードマップの作成

至仏山の自然には、多様な環境が複雑に存在しているため、対処方法も場所ごとに異なってくる。したがって、保全対策を検討するには、その場所がどのような自然環境なのかを特定することが先決になる。そこで地形条件と植物群落との関係を重視して、自然環境を特徴（ジオエコタイプ）ごとに分類し、これに基づいて、

「ハザードマップ」を作成した。

2) 対処区画と保全の基本的考え方

このハザードマップで示された自然環境のジオエコタイプに基づいて、対処区画を設定し、次のような主な対処区画を対象に、植生荒廃の原因や問題点、保全を図る上での基本的な考え方をまとめた。

<東面登山道（裸地ブロックD）>

東面登山道沿いの大規模な植生荒廃地で、雪食凹地がそのまま荒廃地となっている。かつては雪食凹地の中を登山道が縦断していたため、荒廃が進んだと思われる。ここには水みちが何本もできているため、土壌の流出が著しく、植生回復は思うように進んでいない。

<高天ヶ原周辺>

脆弱で多様な自然環境が存在するエリアであるが、登山道が縦断している。展望テラス付近は、踏み付けなどの影響で裸地化している。高天ヶ原は元来、強風にさらされて風食を受ける環境（風衝地）で、こうした所にホソバヒナウスユキソウなどの貴重な風衝地植生群落が成り立っている。

<至仏山頂の東面下>

高天ヶ原を過ぎると、登山道は尾根を外れて斜面を横切るように至仏山頂に向かっている。この斜面上には多くの雪食凹地が点在しているが、この脆弱な自然環境の中に登山道が設置されている。登山道は侵食に強い尾根沿いの低木林帯を通すべきで、こうした場所では登山道の付け替えも検討すべきである。

<至仏山頂～小至仏山頂>

登山道は基本的には尾根沿いにあり比較的問題が少ない。しかし、登山道が周辺の植生の部分にまで広がっている場所も数多い。このため柵の設置などにより登山道と植生の区分けを明確にする必要がある。また、この場所は入山者で混雑し、登山道からはみ出す者を防止するため、入山者数の調整も視野に入れた対策の検討も必要である。

<その他の区画>

小至仏山頂から南へ下がった流紋岩地帯と、この流紋岩地帯からオヤマ沢田代に下りる途中の三角形に分岐した木道と休憩テラスの設置場所の2箇所も、脆弱な雪食凹地であるため、登山道の付け替えなどの対策を急ぐべきである。

（文責・高橋 喬）

新指導員 6 名誕生！

平成 17 年度の尾瀬自然保護指導員養成講座の実施状況について報告いたします。

日程

室内研修：平成 17 年 7 月 23 日（土）

午後、東京八重洲の「ジャングルム」にて実施

現地研修：平成 17 年 9 月 23 日（金）～ 25 日（日）2 泊 3 日、尾瀬にて実施

現地研修行程

- ・ 9 月 23 日 戸倉「一仙」 鳩待峠 横田代 アヤメ平 富士見小屋（泊）
- ・ 9 月 24 日 富士見小屋 長沢新道 竜宮十字路 下田代 中田代 上田代 山の鼻 鳩待峠 戸倉「一仙」（泊）
- ・ 9 月 25 日 （車）富士見下入山口 大清水入山口 戸倉関所跡 修了式 昼食会
講師：高橋喬、永島勲、磯部義孝、松前雅明、椎名宏子
受講生：鎮目安康、島崎成利、島田富夫、円谷光行、前田佳胤、八木伸二
申し込み受付窓口：椎名事務局長



現地研修、中田代「竜宮」にて台風で 1 ヶ月延期した現地研修は、また台風到来を心配しながらの実施となりました。

曇空の中、鳩待峠から現地研修が始まりました。アヤメ平で湿原回復状況を学ぶ頃には青空も一部広がり、受講生の表情も明るくなる。今回は花が少ない季節のため、樹木や森林に関する話題が多くなりました。

受講生は、熱心にメモを取り、質問も数多く寄せられました。昔の山小屋の雰囲気が残る富士見小屋では、ストーブを囲んでご主人の萩原始さんから尾瀬に関する貴重な話を聞くことができました。2 日目は、尾瀬ヶ原を縦断しながら湿原に関する研修を主体に行いましたが、

山の鼻からは本格的な雨になってしまいました。

最終日も雨、群馬側の入山口「富士見下」と「大清水」を視察、戸倉の史跡を見学後、一仙での終了式をもって全課程が終了し、新たに 6 名の「尾瀬自然保護指導員」が誕生しました。

この養成講座では「尾瀬の自然」、「自然保護の歴史」、「現在の問題点」等の基礎を学んだのに過ぎません。修了証を手にしたときの感動を忘れずに、今後は入山指導等の実践活動に積極的に参加して、指導員として更なる知識の向上と経験を積んで頂きたいと思います。

最後に、受講生募集を掲載して頂いた「山と溪谷社」、室内研修会場の「ジャングルム」および現地研修宿舎の「一仙」や「富士見小屋」など、ご支援ご協力を頂いた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

（養成講座担当理事 永島 勲）

養成講座終了者の感想文

尾瀬自然保護指導員養成講座に参加して

前田 佳胤

座学の時には地震で驚かされ、フィールド研修は台風で延期、今年は無理？と思った養成講座は、またもや台風のプレッシャーを受けながらも、怪我人もなく無事終了できたのは講師の皆さんのご尽力の賜物と感謝申し上げます。

尾瀬には何回も訪れ、友人達を案内する等他の山と比べても親しみを持ち、景色や花・木等から癒しを受けていますが、訪れる都度「尾瀬は変わってきている」「尾瀬は乾いてきている」という漠然とした印象を持っていました。

今回の座学やフィールド研修を通し、漠然とした印象を裏付ける資料や説明を受け「やっぱり尾瀬は壊れてきている」と確信しました。

尾瀬が今の姿を未来永劫持ち続ける事は自然界の輪廻の中では当然不可能なことであり、少しずつ変化をしていくのはやむを得ないと理解できるものの、人為的にその速度を速めることは絶対に避けなければならないと思います。一度壊された自然は二度と同じ姿に戻る事はないのですから。

しかしながら、今回の講習会を通し尾瀬を取り巻く環境が予想以上に厳しい状況にあることが認識されました。地球温暖化の影響も一部あるものの、至仏山東面登山道に代表される人為的な自然破壊、外来植物の繁殖、鹿等動物による植物の食い荒らしや湿原の踏み荒し、とりわけ人間による破壊・汚染から豊かな自然を守る活動が如何に重要かを、自分なりに少しは理解できた講習会であ

ったと思います。

日本の自然保護運動発祥の地である尾瀬を守り、尾瀬の今の状態をでき得る限り保持し次の世代へ引き継ぐことが今を生きる我々の大切な使命であると考えます。その為には自分として何が出来るのか、何をすべきなのかを、今後の研修や活動に参加しながら、考え勉強して行きたいと思ひます。ご指導宜しくお願ひします。

指導員養成講座「現地研修」に参加して

鎮目 安康

[1] はじめに

東京での室内研修および尾瀬での現地研修において、懇切丁寧に“尾瀬の成立ちから現在の各種問題点とその取組み及び植物図鑑以上の説明”を講義/実習して頂き、本研修に参加の機会を設けてくださった理事長および理事の皆様に、厚く感謝申し上げます。

[2] セミナー内容

針葉樹の種類とその見分け方/シラカバとダケカンバの違い 実を付けた各種植物の名前/各種草モミジの名前 アヤメ平の植生復元の状況 低層湿原・中間湿原・高層湿原・池塘・抛水林の実際 富士見小屋のご主人(尾瀬で生まれ育った人)の夜話 戸倉の歴史 受講生同士の親睦

[3] 所感

・3日間寝起きを共にして過ごした生活を通して、講師の博学・話術には驚いた。今後、話術の向上は無理として、知識の取得には努力して行なければと感じた。

・研修を終えて一番印象に残っているのは、最後の修了式の時に講師が話されたボランティア活動に対する考えである。

永島講師 ボランティア活動の報酬は、感動である。

磯部講師 ボランティア イコール 自分の楽しみである。

・現地研修で撮影した写真50枚の整理を、説明受講時のメモと植物図鑑/自然保護ガイド等の資料を使って行った。これは、ほんの「始まり」に過ぎず、これからまだまだいろんな知識を吸収しなければ! また、このような整理をすることで身に付けた事/各種経験した事の確認になるが、この行為をやる楽しみ(基本的に整理することがきらいでない)が増えたという喜びに浸った。

・“田代”という地名の付いた湿原が多数あるが、近い将来の内に全部訪れてみたい。

・修了式の時は、高橋理事長から直接に厳肅に、修了証/ワッペン/バッヂを授与して頂き、感激も一入でした。

[4] 今後の活動

1) 当面の参加予定活動

* 至仏山の荒廃登山道 * 鹿害調査

2) 今回渡された各種資料の読破および理解

2006年度定期総会開催のお知らせ

2006年度の総会を下記の日程で開催致します。是非、ご出席いただき活発なご発言をお願い申し上げます。

日時: 4月 8日(土) 13時より

場所: 大宮ソニックシティ・会議室
902号室

< 特別講演 >

「裏磐梯の現状」

福島県自然保護協会理事 横田清美氏

年会費: 3,000円・保険料: 1,500円
ご持参ください。

今年度よりスポーツ安全保険の振込手数料が2回目からかかるようになりました。1回で済むよう総会までに申し込んだ方にかぎりませう。その後は各自で加入をお願いします。振込用紙を同封しました。欠席の方は総会までに振込をお願いします。

(事務局長 椎名 宏子)

新入会員の紹介(05年養成講座修了者6名)

- ・鎮目安康(埼玉県行田市)
- ・島崎成利(東京都青梅市)
- ・島田富夫(神奈川県相模原市)
- ・円谷(ツブラヤ)光行(福島県岩瀬郡鏡石町)
- ・前田佳胤(千葉県千葉市)
- ・八木伸二(群馬県利根郡みなかみ町)

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク
〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

http://www.geocities.jp/oze_net/

理事長 高橋 喬
事務局長 椎名 宏子
編集担当 島上 健
HP 担当 東雲 明

